

登米から発信、東北の魅力

— 東北風土マラソン & フェスティバル 2017 —



東北の「風土」と「FOOD」を満喫

東北の春フェス「東北風土マラソン&フェスティバル2017」(同実行委員会主催)は3月18から20日までの3日間、長沼フットピア公園を主会場に開かれ、ランナーや来場者は東北の魅力を楽しみました。

マラソンは、18日にリレーマラソン、19日にフル、ハーフなどが開催され、国内外から約5500人が参加。ランナーたちは、コース内のエイドステーション(給水所)で、登米市名物のはっと、登米産牛のステーキ、南三陸町産めかぶのみそ汁や青森県産リンゴなど、東北の食を楽しみながら、春の長沼を駆け抜けました。

スのメドックマラソン同様仮装するランナーが数多くいました。今年のテーマは「物語と伝説」。伝説のミュージシャン、マイケル・ジャクソン、タイガー・マスクやバイキングなど、さまざまな仮装で見られるのを楽しませました。

東北の特産品の飲食・物販ブースが並ぶ登米フードフェスティバルには、延べ約4万5千人が訪れ、東北の日本酒が勢ぞろいする東北日本酒フェスティバル、20日には、酒蔵見学や南三陸の沿岸部を巡る東北風土ツーリズムも同時開催。ランナーも、観光客も、そして地元民も、東北の「風土」と「FOOD」の魅力を楽しんだ3日間でした。

Interview

参加者・来場者に聴く



金野美香さん(迫町三方島)

市内のサークル「ウイランズ」に所属しています。風土マラソンは初回から出場しており、今回もハーフに挑戦しました。1時間41分4秒と自己ベストの更新をすることができました。治道からの応援は、苦しいときの励みになります。これからも、楽しく続けていきたいです。

五十嵐英之さん(仙台市)

妻、息子と3人で遊びに来ました。マラソンはもちろんですが、東北の美味しいものがたくさんそろってすごいですね。今日食べたもので印象に残っているのは「けの汁」です。体に優しく、懐かしい味がしました。マラソンもするので、来年は走ろうかと思っています。



1競技として走る人、風景と食を楽しむ人、仮装して盛り上げる人。風土マラソンには、さまざまな楽しみ方がある。2開会に先立ち、東日本大震災の被害者に黙祷を捧げた。3長沼湖畔にヤマタノオロチ参上。この仮装には多くの人が驚いた。4ランナーを応援する地域住民。ランナーも応援に応え手を振る。ほほ笑ましい光景は、風土マラソンならではの5マラソン終了後、登米市の銘酒「澤乃泉」を楽しむランナー。6イベントを支えるボランティア。大会の成功は裏方の力があってこそ。ランナー同様、年々国際色が豊かになっている。7エイドステーションで「初恋さくら」を飲むランナー。初恋さくらは、市内企業と登米総合産業高が共同開発した甘酒で、長距離を走る際の栄養補給に適した「ランメシ」8多くの来場者でにぎわうフードフェスティバル会場